

■2011年後半(7月～12月)活動報告■

第33回 ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金

テーマ『SOS！ 栄養不良に苦しむ小さな命を守ろう！』

12月11日(日)	佐賀市	ゆめタウン佐賀店 イオンスーパーセンター佐賀店
	小城市	バニーズ三日月店
12月17日(土)	佐賀市	富士町ぬくもりの会会場
12月18日(日)	佐賀市	佐賀玉屋デパート前 イオン佐賀大和ショッピングセンター ホームワイド佐賀大和店 ベスト電器佐賀大和店
		三養基郡上峰町
	神埼市	トヨタ紡織九州クレインアリーナ
12月25日(日)	鹿島市	ララベル ピオ

Hand in Hand



4日間とも北風の強い寒い日でしたが、園児から小・中学生、引率の皆様、高校生、大学生、ボーイスカウト、カブスカウト、地域のボランティア団体の皆様、高齢者団体の皆様等々、総勢239人にもものぼるボランティアの皆様が参加してくださいました。

ボランティアの皆様は、「ユニセフ募金にご協力をお願いしま～す！」「45円で栄養補助食品のプランピーナッツ1個をおくることができま～す！」「ありがとうございます！」と大きな声で協力を呼びかけました。ボランティアの皆様の熱い思いは、お客様の心に届きたくさんのご協力をいただきました。

ご多用のなか駆けつけてくださったボランティアの皆様、募金箱に温かいお気持ちをお寄せいただいた多くの皆様、快く会場をご提供くださった企業の皆様、本当にありがとうございました。

11月と12月の2ヶ月間にわたって行いました『第33回ユニセフ・ハンド・イン・ハンド募金』での募金総額は、2,011,311円となりましたことをご報告申し上げます。ありがとうございました。

(次ページに続く)

鹿島地区(ピオ・ララベル) 12月25日(日)

ボーイスカウト鹿島第一団の皆さまとボランティアの皆さま総勢24名で、ピオとララベルの2会場で実施しました。北風の強い寒い日でしたが、元気な声で「世界の子どもたちを栄養不良から守るためにご協力をお願いします!」と師走のお買い物のお客さまに呼びかけました。2会場で合計50,126円のご協力をいただきました。ありがとうございました。



ベスト電器佐賀大和

イオンモール佐賀大和会場 12月18日(日)

ボランティアの皆さんは、明るく元気な声でお客様にご協力を呼びかけました。イオンモール佐賀大和店・ホームワイド佐賀大和店・ベスト電器佐賀大和店の3ヶ所での募金ご協力は77,590円でした。



イオンモール佐賀大和店



ホームワイド佐賀大和店



佐賀玉屋前12月18日(日)

参加者 22名

寒い中でしたが、子どもたちや若い人の声に元気づけられました。両手にたくさんの荷物を抱えた高齢の方が、荷物を下ろしてお財布を出して下さったり自転車での通りすがりに降りて募金して下さったりと、感謝の思いいっぱいの活動になりました。



(次ページに続く)

イオン上峰ショッピングセンター 12月18日(日)
参加者23名

上峰小学校のボランティア委員会の皆さんが大勢で参加してくださいました。この会場はリピーターも多く10年近く欠かさず参加してくれている方もおられます。2円で子ども一人の1年分のビタミンを送れます」とみんなで声を合わせて募金を呼びかけました。



富士町ぬくもりの会(富士町コミュニティセンター)
12月17日(木)

山間部の富士町は冷え込み、雪が降るとの予報でしたが雪はなく助かりました。サロンぬくもりのみなさまも熱心にユニセフの話聞いてくださり、たくさんの温かい気持ちを寄せていただきました

イオンスーパーセンター佐賀店会場
12月11日(日)

柳川市内から子どもたち・引率の先生・柳川市教育委員会の皆様など21名のボランティアさんが参加くださいました。ボランティアさんたちは大きな声で「ユニセフ募金にご協力をお願いしま〜す！」とお客様に呼び掛けました。お客様のなかには、家庭で集めた貯金箱を抱えて子どもたち一人一人の募金箱に入れてくださった方もいらっしゃいました。イオンスーパーセンター佐賀店での募金は24,946円でした。



(次ページに続く)

ゆめタウン佐賀 12月11日(日)

ボーイスカウト佐賀第5団カブ隊の皆様がボランティアとして参加し、冷たい風が吹く中、一時も休まず大きな声掛けをしてくれました。その気持ちはお客様方にも届き、数多くの方が立ち止って募金にご協力くださいました。募金をいくつかの募金箱に分けて入れてくださるお客様も目立ちました。



三日月バーニーズ 12月11日(日)

参加者9名

三日月中の若竹ボランティアのご協力をいただいて総勢9名のこじんまりしたハンドインハンドを行いました。

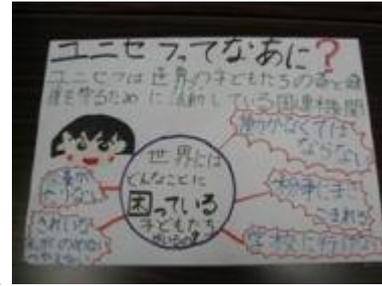
買い物客の中には熱心に活動について質問された後、納得して募金をしてくださる方もおいでになり、たくさん励ましをいただきました。



募金贈呈式

12月22日(木) 柳川市立豊原小学校

豊原小学校児童会では年間計画の中に「ユニセフ募金活動」を入れています。5・6年生の計画委員(10人)は、ポスターを作って全校朝会でユニセフやユニセフ募金についての説明を行い協力を呼びかけました。11月2日から10日まで毎朝8時から15分間児童昇降口で募金活動をしました。参観日には保護者の方々も協力してくださったり、家族の方の募金を預かって来たりした子どもたちもいました。



2学期終業式の後でユニセフ募金の贈呈がありました。代表の方から27,797円のずっしりと重い募金箱を手渡されました。世界には栄養不良で苦しんでいる子どもたちがたくさんいて、様々な複合的な原因で5歳まで生きられない子どもたちが760万人いること、それらを改善するのにビタミンAカプセルやプランピーナッツが有効であり、ユニセフは子どもたちの命を守るために活動していることなどをお話ししました。新谷校長先生からは「ユニセフの活動を通して子どもたちが何らかの気づきを持って心を耕してくれればと思っている。『豊原の子どもから世界の子どもへ』というコンセプトで今後も取り組みたい。」と、お話がありました。

ユニセフ出前授業

12月1日(木) 大川市立田口小学校



人権週間ということで、全校集会で「名前」や「出生届」を通して人権について考えました。

誕生日が近い子どもたちのためにみんなでハッピーバースデーを歌ったあと、誕生日と出生届について考えてもらいました。出生届をしてもらっているから誕生日をお祝いできる事、出生届(出生登録)をして名前や誕生日が戸籍に載ることは子どもが基本的に持つ権利であること、世界では6割の子どもが出生登録をされないで「存在しない子どもたち」として様々な不利益な状況下におかれていることをお話ししました。

難しい内容でしたが1年生から6年生までみなさん真剣に聞いて考えていました。



ハンドインハンド募金とグッズ頒布

11月23日(水) トヨタ紡織九州レッド・トルネード試合会場(神埼中央公園体育館)

神埼中央公園体育館にてハンドボールリーグ戦が行われました。

残念ながら社会人チーム「レッドトルネード」は敗退してしまいましたが、試合後、選手の皆さんが募金活動に参加してくださいました。

試合後には日がかげり、すっかり寒くなっていましたが、選手の皆さんが一生懸命声を掛けてくださり、23,150円もの募金が寄せられました。選手の皆さんありがとうございました。

次回の試合は12月18日、トヨタ紡績九州のクレインアリーナで開催されます。ユニセフの募金活動、グッズ頒布もありますので、みなさん是非、足をお運びください。

世界手洗いの日

11月22日(火) 愛の泉幼稚園(佐賀市)

愛の泉幼稚園の3歳児・4歳児・5歳児のクラスではインフルエンザ流行期を前に正しい手洗いの大切さについて学びました。今年も保護者の皆様の熱心なご協力で作成の紙芝居や寸劇など、子どもたちが手洗いの大切さを楽しく学べるような仕掛けが工夫されていました。紙芝居や劇を見た後、子どもたちは早速歌に合わせて節水にも気を付けながら手を洗いました。



歌に合わせて上手に手洗い



愛の泉ママさん手洗い隊の紙芝居
「ばいばいばいきん だいまおう」



子どもの命を守るユニセフ
のおはなし



愛の泉ママさん手洗い隊の寸劇
「手洗い上手な子は だあれ？」

ユニセフ出前授業

11月16日(水) 柳川市の矢ヶ部小学校

テーマ「東日本大震災から学ぶもの」

柳川市立矢ヶ部小学校(児童数121人)では毎年ユニセフ授業を教育課程の中に位置づけて、ユニセフの活動からみえる世界の子どもたちをとりまく様々なことを学習しています。

今年は、「東日本大震災から学ぶもの」というテーマで学習しました。1～3年生と4～6年生の2部に分かれ、宮城県や福島県の被災地の写真を見たり、中学生が描いた紙芝居「東日本大震災～被災地の子どもたちからのメッセージ～」(人権教育啓発推進センター／人権ライブラリー発行)で津波発生当時の様子や親を亡くした小学生たちのメッセージを聞いたりしました。児童の中にはいとこの家が流されてしまった子どもや千葉にいるお姉さんの家が液状化現象で家に入れなかった子どももいました。真剣な目で聞き入り、初めて見る被災地の現状に言葉を失っていました。

学習を終えて

- ・被災地では電気や水がなくて困っていた。電気や水を無駄にしないようにしようと思った。
- ・被災地ではおなかを空かせている子どもたちもいた。ごはんを残さないようにしたい。
- ・募金が感謝されていることを知って嬉しい。
- ・毎日勉強をしていること、ごはんを食べることなど当たり前のことが、有り難いのだと知った。
- ・被災地の子どもたちも頑張っているのだから自分も勉強を頑張りたい。
- ・柳川にもいつ地震がくるかわからないので準備をしたい。
- ・今も被災地の子どもたちは頑張っているのだから、遠く離れていても被災地の人々のことを忘れないようにしたい。



ユニセフ募金贈呈式

11月15日(火) 大川市立川口小学校

川口小学校代表委員会計画集会委員(6人)の皆さんは、「世界には苦しんでいる子どもたちがいるので募金をして役に立とう」という提案理由で10月にユニセフ募金に取り組みました。10月17日から28日までの間、手作りの募金箱を持って給食時間に各教室をまわり全校の皆さんに協力を呼びかけました。

2週間の活動の結果26,266円の募金が集まり、本日手渡しがありました。今年度のハンドインハンドのテーマ「SOS! 栄養不良に苦しむ小さな命を守ろう!」のお話をして、プランピーナッツ、ビタミンA、ORS(経口補水塩)などについて説明しました。

計画集会委員の皆さんは今回の募金が、例えば1年分のビタミンAカプセル約13,000人分に当たるということを知り、自分たちの協力の大きさに驚いていました。



ユニセフ募金贈呈式

11月14日(月) 小城市立三日月小学校

三日月小学校6年生ボランティア委員会(15人)の皆さんは、ユニセフ募金に取り組み、ユニセフについて学習することにしました。「ユニセフと地球の友だち」のビデオ視聴のあと、宮城県・福島県の被災地の様子をお話ししました。

ボランティア委員の皆さんは話し合いの結果、10,277円を東日本大震災で被災した子どもたちのためにおくことにしました。



ユニセフ募金贈呈式 & 出前授業

11月12日(土) 柳川市立大和公民館

柳川市立大和公民館青少年ボランティア「なんでんお助け隊」(柳川市内の小・中学生32人)の皆さんは、9月25日柳川市民体育館で開催された「柳川市リサイクルマーケット」に出店しました。東日本大震災被災地の子どもたちへの支援のためにと、隊員たちが手作りしたキーホルダーやプレスレット、かわいらしい髪どめ、ミサंगा、それぞれの家庭で不要になった日用品や贈答品、ぬいぐるみなどを持ち寄りました。隊員の皆さんは「いらっしやいませ！」「どうぞごらんください！」「一生懸命作りました。いかがですか？」など元気に呼びかけました。

リサイクルマーケットへの出店で得た収益金12,705円を「東日本大震災で被災した子どもたちのために役立ててください。」と託されました。募金贈呈の後、宮城県や福島県の被災地を訪問して見聞きしてきたこと、ユニセフの支援活動の様子、被災地の子どもからのメッセージなどについてお話ししました。

【学習を終えて】

東日本大震災で被災した子どもたちの様子が分かってよかった。募金がどういうふう役に立っているか分かってよかった。

被災した中学生が「電気や水のありがたさが分かって地震があつてよかった。」と言っていたのを聞いて「人間って強いなあ。」と思った。

震災があつた3月から5月ごろまでは震災のニュースばかりだったけど、この頃になるとあまり報道されなくなっている。私たちはニュースがないと被災地の光景は分からないけど、被災地の人たちは毎日あの光景を見ているのだから、私たちは被災地のことを忘れないようにしないといけないと思った。

世界手洗いの日

11月10日(木)、小城市のおひさま保育園

インフルエンザが流行する時期を前に、また「世界手洗いの日(10月15日)」にちなんだ手洗い指導が行われました。このうち2~3才の子どもたちは手洗いの大切さをビデオで確認。歌やダンスで手洗いの手順を学んだ後、実際に泡をつけて丁寧に手を洗いました。子どもたちはきれいな手を手を顔に近づけ、「石けんの匂いだ」と笑顔。「うちでもちゃんと洗います」と話していました。

世界手洗いの日について

世界で5歳の誕生日を迎えずに命を終える子どもたちは年間880万人。その原因の多くは予防可能な病気です。自分の体を病気から守る、最もシンプルな方法のひとつが、せっけんを使った手洗いです。正しい手洗いを広めるために国際衛生年であった2008年から、毎年10月15日が「世界手洗いの日」(Global Hand washing Day)と定められました。

ユニセフパネル展&グッズの頒布

11月6日(日) かたりべの里:本庄まつり 会場にて(佐賀市立本庄小学校)

本庄小学校区の地域イベント「かたりべの里:本庄祭」は朝からあいにくの雨でしたが体育館で開催され、子どもみこしや大声大会などで賑わいました。

ユニセフのブースでは、東日本大震災パネル展示、ミニバザー、グッズ頒布をしました。

例年ユニセフのカードをお求めくださるおなじみの方もおいでくださり、また、子どもたちも「おばあちゃんの家が岩手の大槌にある。夏休みに行ってきました。」と言って募金をしてくれる子どももいました。

ミニバザーを含む東日本大震災への募金は8,186円、グッズへのご協力は600円でした。ありがとうございました。



ユニセフ出前授業

10月19日(水)神崎市放課後子ども教室ドリームパーク神崎小学校ゆめ組(1年~4年、27人)

10月26日(水)神崎市放課後子ども教室ドリームパーク神崎小学校ほし組(1年~4年、24人)

テーマ:「水とトイレと子どものいのち」

神崎市子どもの居場所づくり実行委員会では、国の委託を受けて神崎市内の7小学校や公民館で、放課後や週末にいろいろな体験活動、世代間交流ができる居場所づくりを進めています。

神崎小学校ドリームパークゆめ組、ほし組の子どもたちは、「水とトイレと子どものいのち」というテーマで学習しました。

「トイレクイズ」では、トイレがなかった時代の先人の知恵を学び、また世界には今でもトイレのない家や学校がたくさんあることを勉強しました。また、小城高の生徒たちが手作りした紙芝居「手おしポンプ物語」で、村にポンプでき、村の子どもたちの生活が変わったことを知りしました。安全な水が飲めないため、下痢を起し脱水症で世界では毎日4000人の子どもたちが命を落としていることを勉強しました。ORS(経口補水塩)に似たスペシャル・ドリンクを作り、水といのちのかかわりを再確認しました。ネパールの水がめを使っての水運び体験も行い、世界の子どもたちの生活を考えました。

【学習を終えて】

- ・1秒に3人の子供が死んでるなんて知らなかった
- ・あまり前だと思っていたことがすごいことだと知った
- ・泥水を飲んでる人がいるなんて知らなかった
- ・トイレがない学校があるなんて知らなかった
- ・はじめて水が大切だと思った
- ・水が飲めなくて世界の子どもがなくなってるのならなにか考えなくてはと思った
- ・水をムダにしないようにしたい



募金贈呈式

10月19日(水) 事務所にて

佐賀清和中学校では9月6日～9日に清和祭が行われ、ユニセフ実行委員会の15人の皆様を中心となってユニセフチャリティー バザーと募金活動をしました。

本日はユニセフ実行委員会の代表3名の方が事務所にユニセフ募金をお届けくださいました。保護者の皆様や生徒の皆様からご協力いただいたユニセフ募金は、52,079円にもなりました。

実行委員会ではユニセフブースでパネル展や地雷レプリカ展、児童労働のビデオ上映などをしました。

【活動を終えて】

三年間ユニセフ活動をしてきました。最初、ユニセフについてはあまり知りませんでしたが、三年間しているうちに理解がとて深まっていきました。ビデオで児童労働の様子を見て、学校に行きたくても行けないで働かされている子どもが多いのに驚きました。今回の活動で少しでも手助けになればいいと思います。

ユニセフ活動は二回目で、一回目よりも二回目の方が募金の大切さが分かったのでより気持ちを込めて活動することができました。より積極的に活動できたので取り組んでよかったと思いました。

今回のユニセフ活動が初めてで、最初は友だちに誘われて何となくやっていた。でも、活動をしていくなかで、ユニセフの大切さが分かりやってよかったなあと思いました。世界にはまだ働かされている子どもたちがいっぱいいるので、このような子どもたちが学校に行けるようになって勉強ができるように、これからもユニセフを応援していきたいです。



ユニセフ 東日本大震災報告写真展

10月8日(土)～10月15日(土)

佐賀市立図書館中央ギャラリー(佐賀市天神どん3の森)

後援: 朝日新聞社 毎日新聞社 佐賀新聞社 西日本新聞社 読売新聞佐賀支局 NHK佐賀放送局 STSサガテレビ エフエム佐賀



2011年3月11日午後2時46分、国内観測史上最大のM9.0の巨大地震発生、大津波、そして収束いまだ見えない福島第一原発の事故から7ヶ月経ちました。

佐賀のみなさまからもユニセフを通して被災地の子どもたちのために多くのご支援が寄せられました。本写真展では、震災発生から2カ月余りの間に展開した日本ユニセフ協会の支援活動の一部をご紹介します。

アンケートボックスにはたくさんの感想やご意見が寄せられていました。その一部をご紹介します。



(次ページに続く)

【アンケートより】

テレビで見たことのあるような写真もあった。写真一枚一枚に説明が書かれていたので分かりやすかった。まるで原爆が落とされたような光景の写真があってすごく痛々しくとも印象に残った。一日も早く元の町に戻って欲しいと思います。

お墓の前で子どもさんが佇んでいるところが何とも言えなかった。

ユニセフは海外だけでしか活動していないと思っていたので、この地震で日本国内でも活動していたことが知れてよかった。

子どもたちの姿が多いのに驚きました。いきなり自分の周りの環境が変わって大人以上に子どもたちが心の傷をおったかもしれないと考えると写真の中の子どもたちを見て視界がぼやけてきました。被災した子どもたちの傷はもしかしたら癒えないこともあるかもしれない、でもその中で手をいつも差し伸べるユニセフはすばらしいと思いました。

テレビでは知ることができないユニセフでの被災地の救援状況が分かってよかった。まだまだこれからも大変だと思うので、ぜひ被災地の子どもたちのために頑張っていて欲しいと思いました。福島県の子どもたちの未来はどうなるかと私も気にかかっています。

家がめちゃくちゃこわされた跡で、思い出のものを探している男の子がいた。あの子の家族はどうなっただろう、一人ぼっちになっていないだろうかと思った。

震災から半年以上たち、震災のニュースも少なくなってきたので、改めて当時のことを思い出すのによかった。忘れないようにしないといけないと思った。

こんな大変な震災のときにでも、赤ちゃんの検診をするというのに驚きました。でも、検診をしたらお母さんは安心するでしょうね。

あまく見ていたが、写真を見て震災のこわさが分かった。みんなが協力しているのを見て、私にもできることがあるかもと考えさせられた。家なんか跡形もなく流されてしまって、思い出の物も流されて私にはとても衝撃が大きかった。でも、みんなが山ほど救援物資を送っていて私まで嬉しくなった。みんなが笑顔になれるようになって欲しい。

私は友達が「佐賀は地震がきてないから関係ない。」と言っているのを聞いたことがあります。しかし、今日図書館に展示されている地震当時や被害を受けたときの写真を見て、佐賀も同じ日本だし被害を受けなかったからこそ困っている町を助けてあげなければならないことを学びました。その一つとして募金などに取り組んでいこうと思います。

写真ではテレビで見るのとまた違って、子どもたちの悲しみの思いがすごく伝わってきました。改めて、今、私たちがやらなければならないことが分かった気がします。ありがとうございました。

ユニセフのつどい ～ありがとう前へ～

10月9日(日)

佐賀市立図書館多目的ホール(佐賀市天神どん3の森)

後援:朝日新聞社 毎日新聞社 佐賀新聞社 西日本新聞社 読売新聞佐賀支局 NHK佐賀放送局 STSサガテレビ エフエム佐賀



I 講演「東日本大震災報告～ユニセフの現場から～」 講師 福原美穂さん

2000年11月から2003年7月までの約3年間、PWJでイラク北部クルド人自治区で現場責任者として国内避難民・難民・帰還民支援やイラク緊急救援事業に携わる。

前ユニセフ・ニューヨーク本部渉外官。

2011年3月から7月まで、日本ユニセフ協会東日本大震災緊急支援本部宮城フィールドマネージャーとして宮城県での復興支援活動を統括。

II コンサート「風よ どこまでも ななこがの音色」

出演 ななこが

三線・ギター、太鼓などの音色に独特の唄声が重なり、物語のような、祈りのような、どこか不思議な「ななこが」の世界を創り上げる。印象的な言葉で綴る自作の曲に加え、民謡、童謡、唱歌等も唄い、佐賀を拠点に、各地のライブコンサートやイベント、ライブハウス等々、様々な場所でその音色を届けている。



福原美穂さんはとても可憐で「こんな可愛いお嬢さんがイラクの危険な地で活動を...?」と疑いたくなるほど可愛い女性でした。国連児童基金(UNICEF)ニューヨーク本部の最前線で活躍していた時に勃発した未曾有の大災害に、使命感を持って被災地に駆けつけ東日本大震災緊急支援本部宮城フィールドマネージャーとして宮城県での復興支援活動を総括した際の活動報告でした。

日本がユニセフから支援を受けるのは実に47年ぶりのこと。

日本の築いてきた国力により、発展途上国への支援よりも何倍も速いスピードで支援を行えたこと、緊急時であってもユニセフは子どもへの支援にこだわり、おもちゃの配布や学校教育への復帰を早期から取り組んでいること、日本ならではの風土で人道支援が難航したことなどを、とてもわかりやすく話していただきました。日本人として何とか力になりたいと、皆さん熱心に耳を傾けていました。現場に行けなくても、関心を持ち続けることは大切な支援の一つです…。参加者の気持ちを救う言葉で締めくくられました。

ななこがさんはナナコさんとコガさんのユニットです。美しい歌声とギター、三線の優雅な音色で魅了されました。

「花」や「涙そうそう」など誰もが耳になじんだ歌を透き通った声で歌っていただきました。最後は被災地でも多く歌われたという「故郷」を皆で歌いました。

(次ページに続く)

【アンケートより】

ユニセフに寄付していたお金がどのように使われたか、どんなに子どもの心のケアが大切かが分かってよかった。

被災地での子どもへの手助け・フォローの必要性が伝わってきました。我々が考えている以上に被災地の方々には大きなストレスがあり、それを少しでもフォローしていくことが復興に繋がるのだと感じます。

世界でのユニセフの事業について、並びに東日本の震災とユニセフの支援を知ることができてよかった。

子どもの支援がなされていて安心しました。心の傷のケア・サポートはとても重要な、未来の大人づくりです。

ななこがの女性の方が「自分のふるさとに帰りたくても帰れない人がいます。みなさんがいつかふるさとに帰れる日が来るように、そんな気持ちを込めて歌います。」と言って、一緒に「故郷」を歌いました。津波で故郷を失った人々、放射能で汚染されて家に帰れない人々はどんな思いをしておられるだろうかと思いながら歌っていたら自然と涙が出てきました。

ユニセフ 東日本大震災報告写真展

10月8日、9日 佐賀大学医学部むつごろう祭にて

佐賀大学医学部で学園祭のむつごろう祭が行われ、ユニセフのパネル展も開かれました。

パネル展では東日本大震災の被災地の写真パネルが多く展示されました。パネルを見て行かれる方も多くおられ、特に小学生が多かったです。自分と同年代の子どもたちが写っている写真を見て、「かわいそうだね。」など写真を見て思ったことを友達同士で話している姿もみられました。

子どもたちだけではなく足を運んでくださった多くの人に被災地の現状やユニセフがどのような支援をしているかを知っていただけたと思います。



ユニセフパネル展&グッズの頒布

さが国際ふれあいフェスタ2011 ～手をつなごう！世界と佐賀と～

9月19日(月)

「さが国際ふれあいフェスタ2011」が19日、佐賀市天神のアバンセで開かれ、5200人以上の方が来場されました。今年は、韓国・全羅南道友好交流締結記念として～全羅南道(チョルラナムド)フェア～も開催され、美しい民族衣装を着た務安郡と珍島郡の高校生による伝統芸能の披露もあり、終日大変賑わいました。

ユニセフのブースでは、パネル展「東日本大震災～ユニセフの支援～」 「アフリカの角地域～干ばつと食糧危機～」、グッズ頒布を行いました。また、使用済み切手整理体験コーナーでは子どもたちも喜んでチョコットボランティアに参加していました。



多久市の観光公使



「多久翁さん」もお立ち寄りパネル展示コーナー



家族仲良くチョコット体験

事務所訪問

9月12日(月)



佐賀県国際交流協会のインターン生3人の方が事務所を訪れ、ユニセフや日本ユニセフ協会、佐賀県ユニセフ協会について熱心にインタビューされました。

【インタビューを終えて】

ユニセフがどのような方針で活動しているか全く知らなかったのが自分で聞いてみたいと思いました。募金以外にどのような活動をしているかを知ることができて良い経験になりました。自分の将来についてもっと深く考えようと思いました。視野が広がりました。

ユニセフというとすぐに募金というイメージにつながりがちですが、実際は募金だけではなく、例えば子どもの権利条約による啓発活動や他に様々な活動などを行っているのを知れてすごく勉強になりました。(APU留学生)

佐賀県で国際的な支援活動をしている団体をあまりよく知らないところがあったので、直接にお話を聞かせていただいて、より理解を深めることができました。

からつジュニアオーケストラ ♪からつの夏「第九」演奏会♪

8月21日(日) 唐津市民会館大ホール(唐津市西城内)

からつジュニアオーケストラ(筋田典代団長)は創立10周年を記念してベートーヴェンの交響曲「第九番」の演奏会を開催しました。モーツァルトの「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」のウェルカム演奏でお客様を迎え、1200人収容の大ホールは満席になりました。小学2年生から中学生、高校生、大学生を中心に76人の団員と4人のソリスト、90人の合唱団のみなさんが、演奏できる喜び、歌える喜び、心を一つにして音楽ができる喜びを高らかにホールいっぱいに響かせました。

開演にあたって筋田団長から「音楽ができる幸せに感謝し、からつの子どもから被災地の子どもへエールを送りましょう。」と、ユニセフ東日本大震災緊急募金への協力の呼びかけがありました。「歓喜の合唱」の余韻のなか、多くのお客様から62,972円のご協力がありました。ありがとうございました。



ユニセフ出前授業

8月9日(火) 唐津市立浜玉中学校(唐津市ひれふりランド)
テーマ:「平和について考える」

唐津市立浜玉中学校(生徒数334人)生徒会では8月9日に平和集会を開催しました。
1分間の黙とうのあと、生徒会役員による「長崎原爆」と「世界の子どもたち～児童労働・少年兵～」の発表がありました。
続いて3年生のみなさんが修学旅行で行った「知覧特攻平和会館」で学んできたことを発表しました。
その後、佐賀県ユニセフ協会より「平和について考える」という演題でお話をさせていただきました。

【学習を終えて】

今日のお話で「子どもの権利条約」があるということを初めて知りました。
毎晩電気をつけられること、ご飯を三食きちんと食べられること、勉強ができることなど、私たちにとっては日常の当たり前のことですが、戦時中にはとてもできなかったということが分かりました。日常を守る、平和のために私ができる「はじめの一步」を考えて実行していきたいです。

平和とは日常のことがふつうにできる毎日のこと、今日の話聞いて自分たちがどれだけ平和な生活をおくっているかが分かりました。ふつうに勉強できること、食べられることに感謝したいと思います。



佐賀市平和展

第20回佐賀市平和展 ～語り継ごう、平和の尊さ～
パネル展「紛争下の子ども的人権」&地雷展「地雷ってどんなもの？」

8月4日(木)～8月7日(日) 佐賀市立図書館(佐賀市どん3の森)



佐賀市では平成4年度から毎年「佐賀市平和展」を開催し、今年で20回目を迎えます。

今回の平和展は、「親と子がいっしょに考える平和展」をコンセプトに、子どもたちにも分かりやすい内容の展示や催しもの、また戦時中の食事や遊びを体験するコーナーなどが設けられました。

佐賀県ユニセフ協会によるユニセフパネル「紛争下の子ども的人権」&地雷展「地雷ってどんなもの？」や、「漫画家たちの八月十五日展」、「こどもたちへ伝えたい、佐賀空襲の記憶」などの催しに3000人を超える市民の皆様のご来場がありました。

【来場者の声(アンケートより)】

子どもたちはみな自分のやりたい事や夢があるのに、生まれたときからこんな紛争下におかれて、いったい何のために生きているのか分からないと思った。何の関係もない子どもたちを巻き込むなんて、卑怯だし、最低な事だと思った。子どもたちの夢を叶えるのが大人の役目であるはずなのに、むしろ子どもたちの夢を壊している気がしてとても悲しくなった。

どの子にも平和に生きる権利があるはずなのに、生まれた時代と地域によってひどい格差があることに胸が痛む。

今まで地雷がどんなものか知らなくて、こんなにたくさん種類があるのにびっくりした。おもちゃみたいなのは子どもが間違っただけでもおかしくないし、殺傷能力がとても強いものもあって、地雷はとても恐ろしいと思った。

学校は、こういう事を教えてくれないんです、本当。かといって、テレビやインターネットでも、なかなか真剣に考えてみる時間というものがありませんでした。いい時間を過ごせました。ありがとうございました。

終戦は祐徳神社で迎えましたが、原爆で亡くなった親せきの葬儀を3名出しました。この平和展を見て色々な事を思い出すことができました。有難うございました。やはり平和でないといけません。

私も大人になったら、紛争下の子どもたちの命を守れるような大人になりたいと思う。皆同じに生まれてくる人間なのに、こんなに差別されなきゃいけないのはおかしいと思うし、同じ世界で生きている人間だからこそ、今できることを自分でしっかりやりたいと思う。

私たち日本の子どもたちと何一つ変わらない世界中の子どもたち。皆、幸せだと思っていた。世界中の子どもたちが手をつないで仲良くしている、なんて絵をよく見ていたから。あの絵は、今を描いたものではなかったんだ。私たちが作らなきゃいけない未来の絵だったんだ。初めて気付いた。

ユニセフパネル展&ユニセフグッズ頒布

8月3日(水) ピースアクション2011会場 アバンセ(佐賀市)

佐賀県生活協同組合連合会主催の『ピースアクション2011 ～子どもたちに、核兵器と戦争のない世界を願って～』が開催され約200人の参加者がありました。今年は子どもを連れてお母さんの参加が目立ちました。

午前中は、どんだんどの森ふれあい広場から平和行進がスタートしました。午後はアバンセホールで「平和のつどい2011」が開かれ、講演「被爆の証言」とアニメ映画「ジュノー」の上映がありました。

ホール・ホワイエで、ユニセフのパネル展・地雷レプリカ展・ユニセフグッズの頒布をしました。皆さまからのグッズ頒布ご協力は13,810円、東日本大震災緊急募金へのご協力は10,330円でした。ありがとうございました。



募金贈呈式

7月20日(水) 佐賀市立赤松小学校

赤松小学校では今年もユニセフ募金活動に取り組みました。各クラスでユニセフについての学習をし、6年生のボランティア委員のみなさんは各教室をまわってユニセフポチ袋の作り方を説明しました。

7月11日(月)から15日(金)までの5日間、ボランティア委員のみなさんは登校時に児童昇降口で募金箱を持ち協力を呼びかけました。協力してくれた人には「協力ありがとう」とユニセフ手帳を手渡し、手帳の作り方も教えました。全校のみなさんから、13,384円の募金が集まり「東日本大震災で困っている子どもたちに」と託されました。ユニセフが東日本の被災地で展開している支援活動の一端を紹介しました。

【ボランティア委員の話】

毎日少しずつだったけど1万円以上にもなったので赤松の人はすごく優しいなあと思いました。

朝早く起きるのはきつかったけどたくさん集まってよかったと思います。

みんなが自分の小遣いを地震にあった人のために募金してくれたので、みんな日本を大切に思っているんだなあと思いました。

最初は少なかったけど、だんだん募金してくれる人が多くなったので「赤松の子どもはすごい」と思いました。

ひとりひとは少なかったけどみんなが協力してくれたので1万円以上にもなりました。すごいなあと思います。



ボランティア委員会のみなさん

ユニセフ出前授業

6月22日(水) 神崎市放課後子ども教室ドリームパーク千代田西部小学校ゆめ組(1年~4年、21人)

6月29日(水) 神崎市放課後子ども教室ドリームパーク千代田西部小学校ほし組(1年~6年、36人)

テーマ:「水とトイレと子どものいのち」

神崎市子どもの居場所づくり実行委員会では、国の委託を受けて神崎市内の7小学校や公民館で、放課後や週末にいろいろな体験活動、世代間交流ができる居場所づくりを進めています。

千代田西部小学校ドリームパークゆめ組、ほし組の子どもたちは、「水とトイレと子どものいのち」というテーマで学習しました。

「トイレクイズ」では、世界にはトイレのない家や学校がたくさんあることを知り、紙芝居「手おしポンプ物語」で、村にポンプが一つできただけで村の生活が変わり子どもたちが学校へ行けるようになったことを知りました。また、安全でない水のため下痢を起こし脱水症でたくさんの子どもの命が奪われること、それを改善するにはORS(経口補水塩)が役立つことなどを知りました。そして、ORS(経口補水塩)に似たスペシャル・ドリンクを作りました。その後、ネパールの水がめを使つての水運び体験をしました。

【学習を終えて】

世界にはトイレのないお家があるのがびっくりした。

紙芝居が楽しかった。村にポンプができてよかった。子どもたちが遊びながらタンクに水がたまるのがおもしろい。

日本では当たり前のことが、世界では当たり前じゃなかったことに驚いた。

お風呂の水を洗濯に使うことの大切さがわかった。

いまこの瞬間にも亡くなっている子どもがいるなんて知らなかった。

水運びがきつかった。

歯磨きをするときも水を止めようと思った。



トイレクイズ



紙芝居



スペシャル・ドリンクで
「かんぱ〜」

募金贈呈式

6月21日(水) 佐賀県教育会館にて

コープさが生協では2008年度から「ネパール指定募金」として、お年玉募金をはじめ、エリアでのユニセフバザー・支部まつりやコープフェスタなどの中でユニセフ募金活動に取り組んでおられます。

2011年度第21回通常総代会において「ユニセフ・ネパール指定募金」496,373円を、佐賀県ユニセフ協会太田記代子常務理事に贈呈されました。皆様からご協力いただいた浄財はネパールにおける「地域主体の女性と子どもたちのためのプログラム(DACAW):農村女性による村の開発計画(教育・保健・衛生・保護)」を資金面・技術面から支援するために役立てられます。ありがとうございました。



2011年ユニセフお年玉募金メッセージより

あなたから もうひとりの お友だちへ

- ★家族みんなのお小遣いを集めました。少しでも役に立ててください。
- ★世界中の人たちが幸せな気持ちで毎日がおくれますように。
- ★コーヒー一杯分の募金ですが子どもたちのために使っただけだと「からだ」よりも「心」があたたまります。
- ★世界中の子どもたちが健康で幸せな毎日を過ごせますようにお祈りしています。